日本語版序

財団法人二二八事件紀念基金会のここ二年間の主要業務の一つが、「二二八事件に対する移行期における正義（以下、移行期正義）の報告」に関わる研究である。この業務は、もとより政府の移行期正義政策を実現する一部であるが、二二八事件紀念基金会の法定職責でもある。「二二八事件処理及賠償条例」の第三一一条規定、「二二八事件の真相の調査、史料の収集および研究」、「関連責任の帰属先の明確化」に基づいており、基金会は二二八事件の真相と事件の責任帰属先の研究を継続して行っている。そのため、「移行期正義促進条例（促進轉型正義條例）」の立法作業が完了する前に、国家人権博物館（準備所）と内務部の経費支援を受けて、基金会は「二二八事件の真相と移行期正義」研究グループを組織し始めた。研究グループは陳儀深（国史館館長）が主幹、私が協同主幹に就いた。参加した研究者・専門家は以下の通りである。黎中光（国史館主任秘書）、何義麟（台北教育大学台湾文化研究所教授）、許文堂（中央研究院近代史研究所副研究員）、蘇瑤崇（静宜大学通識教育中心教授）、劉恆妏（台湾師範大学公民教育與活動領導学系副教授）、林正慧（中央研究院台灣史研究所助研究員）、歐素瑛（国史館修纂処纂修）、吳俊瑩（国史館修纂処協修）。また、中央研究院台湾史研究所の許雪姫所長、台北教育大学台湾文化研究所の李筱峰名誉教授を顧問として招き、原稿の審査にあたった（後に国史館修纂処侯坤宏処長が審査作業に加わった）。

「二二八事件の真相と移行期正義」計画の実施期間、基金会は関心ある人たちから繰り返し尋ねら

れた。「これで二二八事件の移行期正義は完了できたのでしょうか。」答えは非常に明瞭だと考えている。「もちろん、そうではありません。」前述のように、二二八事件紀念基金会にとって、真相の調査を行うことや移行期正義の業務推進は、法定の任務の一つである。この二年間の政治的史料の再発見作業では、少なくない二二八関連の史料を見つけ出した。近い将来、政府と国民の継続的な努力を通じて、さらに多くの史料と公文書が見つかるはずである。これらの新しい史料と公文書は、むろん、新たに再整理される必要がある。したがって、『二二八事件の真相と移行期正義に関する報告書』の完成または出版は、二二八事件に関する移行期正義の段階的な任務の完成に過ぎない。将来的には、この基礎の上に、どのようにして二二八移行期正義を継続推進するのかが、基金会、そして政府の関連部門が追うべき責務である。

一方、移行期正義業務の推進は、過去の歴史を引き継ぐためだけではなく、われわれ台湾の人々の未来のためでもある。この点で、「二二八事件の真相と移行期正義」研究の推進は、自由、民主主義、人権の価値を深めることであり、この価値は、今日、まさに台湾のソフトパワーを強化する重要な方向の一つである。過去の歴史の再検討に加え、国民が歴史の教訓を読み取って、自由、民主主義、人権の価値を共に守り、二二八事件のような国家の公権力による不当な人権侵害事件が発生しないようにし、また自由、民主主義、人権の価値の交代を回避するように喚起することでもある。これは国民の努力によってはじめて達成できるものである。本書の日本語版の出版が、人権と歴史に関心のある日本の人々が台湾の二二八事件を理解し、そして自由、民主主義、人権の普遍的価値の実現のために、一緒に努力されるように期待するものです。

研究活動全体の展開に関しては、一九九二年の行政院『「二二八事件」研究報告』と二〇〇六年の本基金會による『二二八事件責任帰属研究報告』を基礎として、研究グループのメンバーが、新た

に発見した公文書や史料に基づいて、また過去においては時間や環境の要因で取り扱わなかった部分も章をさいて執筆した。現段階での研究成果は、二〇一八年一一月の「二二八事件の真相と移行期正義の研究フォーラム」（二二八事件真相與轉型正義研究論壇）と、二〇一九年七月の「台湾二二八事件の真相と移行期正義の国際シンポジウム」（台灣二二八事件真相與轉型正義國際研討會）で、先後して発表した。本書日本語版は、「二二八事件の真相と移行期正義の研究フォーラム」で発表された論文が審査に送られ修正を加えて完成したものである。

最後に、本日本語版の出版は愛知大学の黄英哲先生の仲介を受けた。また、日本語訳は政治大学の前田直樹先生のコーディネートしたチームと本基金会の葉宗鑫氏が進めた。風媒社は本書の日本での出版と普及を担っていただいた。彼らの支援は本書の円滑な出版の重要な手助けであり、彼らと出版に関わった人たちに感謝するものです。

財団法人二二八事件紀念基金会董事長　薛化元